



個人のみならず地域・社会のウェルビーイング向上を目指した シニアのための持続可能なデジタル利用支援システムの開発

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川 孔美 准教授

【研究分野】 高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育 & 専門職連携実践

【キーワード】 地域包括ケアシステム、サロン、世代間交流、デジタルデバイドの縮小、ボランティア

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=202oga>



研 究 概 要

「誰一人取り残さない」デジタル化を進める観点では、地理的・経済的・身体的制約の有無にかかわらずデジタル活用を促すため、デジタルへの接触機会を増やしその価値を実感できるようにするなどの継続的なデジタル利用支援が必要です。

「端末の操作が難しい」、「近くに相談できる人がいない」といった理由で、**デジタル活用を躊躇する人たちは高齢者を中心に存在**しており、「デジタル推進員」¹⁾や民生委員、各専門職等が支援していますが、デジタルリテラシー、セキュリティ等、支援のうえでの課題も多く指摘されています。

支援を受ける高齢者だけでなく、支援に関わる地域住民・専門職とともにウェルビーイング向上を可能にする、地域ニーズに即した安心安全なデジタル利用支援の仕組みや教材を開発し、その効果を検証しています。

1) デジタル庁「デジタル推進委員の取組」(<https://www.digital.go.jp/policies> 2024.2.14)

研 究 紹 介

1. シニア世代におけるデジタルデバイス要因の研究
2. 社会福祉協議会〔生活支援体制整備事業〕における協議体（地域支え合い会議）、自治会、地区サロン、地域包括支援センター等との連携によるデジタル支援事業
3. デジタル支援を行う「支援者」が抱える困難—課題解決に向けた支援の開発

講 座 テ ー マ 紹 介

- ・地域包括ケアシステムにおける高齢者の見守り支援とICT活用
- ・シニア世代におけるデジタルデバイス要因と支援のあり方
- ・デジタルリテラシーって？—スマホサロンの運営のポイント
- ・超高齢社会におけるデジタルデバイスと社会的孤立

アピールポイントなど

自治体における「地域包括ケア推進代表者会議 顧問」「地域包括支援センター運営協議会委員」「地域福祉計画審議会 会長」等にて、地域の実情把握、課題検討を行っています。

また、企業、NPO等との連携も大切にしており、デジタルデバイス対策に関する課題解決に関する共同研究、システム開発に関する共同研究ができたと思っています。